

ゆったり回って自分探しを

「愛・地球博」広報プロデューサー
マリ・クリステイヌ

今回は大阪万博とは違う新たな形の夢を見てほしい。展示に楽しませてもらうのではなく、自ら楽しんでほしいんです。

例えば、万博史上で初めてNPOやNGOが参加します。約200のグループが半年間、毎日「盆栽から戦争まで」というほどの幅



米国人の父、日本人の母と各国で暮らし、上智大入学後、芸能界へ。現在は国連人間居住計画親善大使。

広いテーマまでワークシヨップを繰り広げます。こんな世界会議を聞ける機会はないでしょう。

子どもたちには「グローイングヴェイレッジ」でたるから空を見つめたり木に登ったり、日常できない自然体験をしてほしい。

約120カ国の外国館では、世界のおい、香りを感じてほしい。参加国すべての料理を食べてもいいし、言語を聞いてみてもいい。オリンピックと同じで、世界が集まっているという感覚が世界平和を得た感じにつ

ながると思います。

1970年の万博は、月の石はもちろん、イタリア館のピザも、ブルガリア館のヨーグルトも、アメリカ館のケンタッキーフライドチキンも、UCCが発売した缶コーヒーもみんな日本人にとって初めて。行くだけで未来への夢、希望の世界が見える万博だった。

今回は、ぜひ何回も会場に足を運んで、ゆったりといろんな体験を考えてください。そうすれば、新たな未来が見え、自分探しもできると思います。